

平成 29 年度 第 3 回 上越市歯科保健計画策定委員会 次第

と き 平成 29 年 10 月 19 日 (木)
午後 3 時 30 分～午後 5 時
ところ 上越市役所木田第 1 庁舎 401 会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 歯科保健計画における今後の対策と評価指標について

(2) 歯科保健計画の中間評価、見直し (案) の構成について

(3) その他

4 閉 会

上越市歯科保健計画策定委員会 委員名簿

(任期：平成 29 年 7 月 6 日～平成 30 年 3 月 31 日)

(敬称略・順不同)

No	委員名	所属等	選出区分
1	高橋 秀雄	一般社団法人 上越歯科医師会 地域保健部 理事	歯科医療団体
2	山岸 公尚	一般社団法人 上越歯科医師会 上越市歯科保健対策委員長	
3	相馬 陽	一般社団法人 上越歯科医師会 上越市歯科保健対策副委員長	
4	加藤 拓	一般社団法人 上越歯科医師会 上越市歯科保健対策委員	
5	小林 龍彰	一般社団法人 上越歯科医師会 上越市歯科保健対策委員	
6	黒田 陽	一般社団法人 上越歯科医師会 上越市歯科保健対策委員	
7	俵木 修	一般社団法人 上越歯科医師会 上越市歯科保健対策委員	
8	飯野 美智子	在宅栄養士	公募市民
9	樋口 聖子	新潟県歯科衛生士会 上越ブロック長	歯科関係団体
10	中林 智美	上越地域振興局健康福祉環境部 医薬予防課 主査	関係行政機関

資料1 上越市歯科保健計画 現計画と新たな施策の方向性との比較(案)

	現計画の施策			新たな施策の方向性(素案)		
	現計画の目標	主な取組	目指す姿(指標)	施策の方向性	主な取組	目指す姿(指標)
乳幼児期	・家族で子どもの歯の健康を守る意識の向上と口腔ケアの習慣化	1. 幼児歯科健診の実施 2. 幼児歯科健診におけるフッ化物歯面塗布の継続 3. 幼稚園・保育園でのフッ化物洗口の継続・拡充 4. 健康教育・健康相談の継続	・3歳児のむし歯有病率の減少	・生活リズムを基盤とした体づくりと、咀嚼や嚥下等の口腔機能を獲得するための食生活の実践 ・保護者による適切なブラッシングの実践	1. 健康教育・健康相談の継続 2. 幼児歯科健診の継続 3. 幼児歯科健診におけるフッ化物歯面塗布の継続 4. 幼稚園・保育園でのフッ化物洗口の継続・拡充 【新規】 幼児歯科健診時、フッ化物歯面塗布未実施者の理由の把握 【拡充】 保育園で実施するむし歯予防教室における講話を全園児の保護者を対象に実施 【拡充】 フッ化物洗口・むし歯予防教室の未実施園に対して園歯科医や県と連携した実施への働きかけ	・3歳児のむし歯有病率の減少
			【新】 5歳児のむし歯有病率の減少			
学童・思春期	・子ども自身の歯や口の健康を守る意識の向上と身体をつくる生活習慣の確立	1. 歯科検診の実施 2. フッ化物洗口の継続・拡充 3. 健康教育・健康相談の継続	・12歳児のむし歯有病率の減少	・体をつくる生活習慣の確立と、食習慣の選択や咀嚼からの口腔機能の獲得 ・小学校中学年までの保護者による仕上げ磨きと、子ども自身による適切なブラッシングの実践	1. 健康教育・健康相談の継続 2. 歯科検診の継続 3. フッ化物洗口の継続・拡充 【新規】 高校生の口腔状態や口腔ケアの実態の把握 【拡充】 子ども自身が歯間部清掃具を用いたブラッシングができるよう指導を継続	・12歳児のむし歯有病率の減少
			・中学生の歯周病判定率の減少			【新】 小学生の歯周病判定率の減少
			【新】 高校生の歯周病判定率の減少			
成人期	・全身の健康につながる歯や口腔の健康管理の実践	1. 成人歯科健診の継続・拡充 2. 健康教育・健康相談の実施	・25～29歳、45～49歳、60～64歳における歯肉に炎症所見を有する人の減少	・全身の健康につながる歯や口腔の健康管理の実践	1. 健康教育・健康相談の継続 2. 成人歯科健診の継続 【新規】 「健康歯援プログラム」を活用した生活習慣改善への保健指導と受診勧奨の動機づけ 【拡充】 歯科衛生士を講師に、健診結果説明会及び地区健康講座における唾液潜血検査と健康教育の実施	・歯肉に炎症所見を有する人の減少(20～69歳まで年代ごとに評価)
			・45～49歳、60～64歳で未処置歯のある人の減少			・未処置歯のある人の減少(20～69歳まで年代ごとに評価)
			・45～49歳で喪失歯がある人の減少 ・60～64歳で自分の歯が24本以上ある人の増加			・45～49歳で自分の歯が28本以上ある人の増加 ・60～64歳で自分の歯が24本以上ある人の増加
			・過去1年間に歯科健診を受診した人の増加			・過去1年間に歯科健診を受診した人の増加
高齢期	・生活の質を守るための歯や口腔機能の維持と口腔ケアの継続	1. 成人・後期高齢者歯科健診の継続・拡充 2. 健康教育・健康相談、訪問事業の実施	・70～74歳で自分の歯が24本以上ある人の増加	・生活の質を守るための歯や口腔機能の維持と口腔ケアの継続	1. 健康教育・健康相談、訪問事業の継続 2. 成人・後期高齢者歯科健診の継続 【拡充】 歯科衛生士を講師に、健診結果説明会及び地区健康講座における唾液潜血検査と健康教育の実施	・70～74歳で自分の歯が24本以上ある人の増加
			【新】 過去1年間に歯科健診を受診した人の増加			
			【新】 何でもよく噛んで食べることができる人の増加			
障害児・者・要介護者	・個々の状態に適した歯の健康を守るための意識の向上と口腔ケアの習慣化	1. 歯科健診の継続 2. 健康教育の実施	・歯科健診を受診した人の増加	・個々の状態に適した歯の健康を守るための意識の向上と口腔ケアの習慣化	1. 歯科健診の継続 2. 健康教育の継続 【拡充】 障害児(者)歯科保健推進事業未実施施設への勧奨	・障害児(者)歯科保健推進事業実施施設の増加

資料2 上越市歯科保健事業 ライフステージごとの対策と指標(案) NO.1

目標：歯やお口の健康状態を保ち、生活の質（QOL）を維持・向上させる。

*人口：H29.3.31現在

時期	乳幼児期 (0～6歳：10,800人)	学童・思春期 (小・中・高校生：20,200人)
これまでの取組	<p>目標：家族で子どもの歯の健康を守る意識の向上と口腔ケアの習慣化 評価のポイント：むし歯のない児の増加</p> <p>【幼児歯科健診の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士による仕上げ磨きの必要性及びフッ化物利用の啓発 ・歯科健診結果に応じた受診勧奨 ・親と子のよい歯のコンクール（県表彰）への推薦 <p>【幼児歯科健診におけるフッ化物歯面塗布の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診時におけるフッ化物歯面塗布（希望者） ・定期的なフッ化物歯面塗布（実施歯科医療機関の情報提供）及びかかりつけ歯科医をもつことの啓発 <p>【幼稚園・保育園でのフッ化物洗口の継続、拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園の4歳児・5歳児を対象にフッ化物洗口を実施 ・フッ化物洗口未実施園に対する園歯科医や県と連携した啓発・勧奨 <p>【健康教育・健康相談の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診、離乳食相談会における成長・発達に合わせた栄養及び咀嚼の指導 ・1歳、2歳6か月児健診における歯科衛生士による集団ブラッシング指導 ・保育園の4歳児とその保護者を対象に、歯科医師又は歯科衛生士によるむし歯予防教室を実施 	<p>目標：子ども自身の歯や口の健康を守る意識の向上と身体をつくる生活習慣の確立 評価のポイント：むし歯や歯肉炎のある人の減少</p> <p>【歯科検診の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科検診の結果に応じた治療勧告の実施 ・養護教諭、担任等による不正咬合や顎関節異常のある児童・生徒への受診支援 ・養護教諭、担任等によるむし歯の多い児童・生徒等に対する生活支援 ・口腔内の健康を守る評価の取組として、優秀校等の表彰を継続（県事業） <p>【フッ化物洗口の継続・拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県や学校医・学校歯科医と連携したフッ化物洗口未実施校への啓発 <p>【健康教育・健康相談の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・噛みごたえのある食べ物を給食に取り入れ、よく噛んで食べることの動機づけ ・生活リズムや口腔機能及び身体の成長に合わせた食べ方について、養護教諭を中心に歯科保健教育を実施 ・概ね小学校5年生及び中学校1年生を対象に、歯科衛生士による歯肉炎予防教室を実施 ・保健だよりや給食だよりによる「歯や口腔の状態を確認する必要性」の啓発 ・むし歯予防図画やポスター、標語の募集と展示による、むし歯・歯周病予防の動機づけ
達成状況	<p>＜達成の見通し＞</p> <p>○むし歯のない3歳児の割合：(H34)目標値：90% (H23)84.3%→(H28)89.8%</p> <p>＜達成は難しい＞</p>	<p>＜達成の見通し＞</p> <p>○むし歯のない12歳児…(H34)目標値：80% (H23)76.5%→(H28)85.5%</p> <p>＜達成は難しい＞</p> <p>○歯肉に炎症所見のある中学生…(H34)目標値：12% (H23)17.9%→(H28)19.8%</p>
現状	<p>乳歯のむし歯有病率（H28）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5歳児（園児）：33.4%（県平均31.1%） 園児は、年齢が上がるとともにむし歯有病率が高くなっている。 <p>フッ化物応用の実施（H28）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児歯科健診でのフッ化物歯面塗布実施率：78.0% ・幼稚園・保育園でのフッ化物洗口実施率：78.9% <p>乳幼児健診時のアンケート結果（H28）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1歳6か月児…食事を奥歯で噛んでいる：69.0% ・3歳児…毎日保護者が仕上げ磨きをしている：97.6% ・3歳児…かかりつけ歯科医がいる：32.8% <p>乳幼児健診における相談内容（H27）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事や咀嚼、生活リズムに関するもの：35.6% 	<p>永久歯のむし歯有病率（H28）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生：5.5%（県平均7.0%）・中学生：17.4%（県平均23.7%） <p>歯周病判定率（H28）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生：12.5%（県平均11.2%）・中学生：19.8%（県平均19.5%） ・高校生：25.7%（県平均23.6%） <p>要治療者の受診状況（H28）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・むし歯…小学生：53.0%、中学生：27.7% ・歯肉炎…小学生：64.0%、中学生：46.0% <p>デンタルフロスを用いた歯磨き指導実施率（H28）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校：94.6%、中学校：84.6%、高校：6.9% <p>フッ化物洗口実施率（H28）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校：98.2%（県平均83.9%）・中学校：98.2%（県平均40.6%） <p>小・中学生のライフスタイル調査結果（H27）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を毎日バランス良く食べる子どもの割合：33.7% ・朝食を食べない子どもの割合：6.0%
分析・考察	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診における相談の約4割は、食事や間食、咀嚼など歯や口腔の健康につながる内容であり、食習慣の形成や口腔機能の獲得に関わる離乳食期からの健康教育が重要である。 ・柔らかい食事や食べ物をよく噛まないことにより、唾液の分泌が促進されず、歯垢がたまりやすい状態となっている。 ・3歳児で保護者が毎日仕上げ磨きをしている割合は高いが、3歳以降の園児のむし歯有病率が年齢と共に増加しており、適切なブラッシングが継続できていないと考えられる。 ・かかりつけ歯科医がいる3歳児は約3割と低く、むし歯や痛みがないと歯科受診につながっていない。フッ化物歯面塗布を歯科医院で定期的に受けている人の実態が不明である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学生の生活リズムや食習慣の乱れが、歯垢や口腔内の不潔な状態につながり、歯周病の一因となっていると考えられる。 ・年齢が上がると共に保護者による仕上げ磨きがなくなり、子ども自身が適切なブラッシングを実践できていないことも歯周病の一因と思われる。 ・歯科検診の結果、適切な治療を受けていない子どもが半数おり、むし歯や歯周病の重症化が懸念される。 ・要治療にも関わらず受診しない子どもや、かかりつけ歯科医がいない子どもに対し、歯科治療への意識や、経済的な問題の有無等との因果関係も視野に実態を把握していく必要がある。 ・小・中学校までの歯科保健対策が高校で途切れ、成人期のむし歯や歯周病の増加につながっていると考えられる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期からの生活リズムと食習慣の形成、咀嚼等の口腔機能の獲得。 ・保護者による適切なブラッシングを小学校中学年まで習慣づける。 ・かかりつけ歯科医がいる児が少なく、定期的に歯や口腔の状態を確認できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歯や口腔の健康を守るための食事や間食の選択、咀嚼の重要性について子どもの理解と実行につながっていない。 ・歯間部清掃を含む適切なブラッシングが実践できていない。 ・歯科検診後の適切な歯科治療に対する意識の向上が必要。
対策（◎拡充 ☆新規）	<p>対策の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムを基盤とした体づくりと、咀嚼や嚥下等の口腔機能を獲得するための食生活の実践 ・保護者による適切なブラッシングの実践 <p>【健康教育・健康相談の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離乳食相談会及び幼児歯科健診において、生活リズム、食習慣の形成、咀嚼等の口腔機能を獲得するための健康教育を継続 ◎保育園で実施するむし歯予防教室において、歯科医師又は歯科衛生士による講話を全園児の保護者を対象に実施 <p>【幼児歯科健診の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士によるブラッシング指導において、保護者に対し歯間部清掃具を用いた自身のブラッシングについて併せて指導 <p>【幼児歯科健診におけるフッ化物歯面塗布の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1歳児及び3歳児健診の問診時、「歯科健診会場やかかりつけ歯科医で2～3か月ごとにフッ化物歯面塗布を実施し、歯や口腔の状態を確認していくことの必要性」の啓発と、フッ化物歯面塗布実施歯科医院の情報提供 ☆フッ化物歯面塗布未実施者の理由の把握 <p>【幼稚園・保育園でのフッ化物洗口の継続、拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎未実施園に対し、園歯科医や県と連携しむし歯予防教室も含めた実施への働きかけ 	<p>対策の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体をつくる生活習慣の確立と、食習慣の選択や咀嚼からの口腔機能の獲得 ・小学校中学年までの保護者による仕上げ磨きと、子ども自身による適切なブラッシングの実践 <p>【健康教育・健康相談の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムとバランスのとれた食事、咀嚼が口腔内の健康及び全身の健康につながることを啓発 ◎子ども自身が歯間部清掃具を用いたブラッシングができるよう指導を継続 ・かかりつけ歯科医で定期的に歯や口腔内の状態を確認し、適切な治療を受けるための啓発 ・歯肉炎予防教室の継続 ・高校において、学校歯科医や養護教諭、県と連携して昼食後の歯磨きと、かかりつけ歯科医で定期的に歯や口腔内の状態を確認する必要性について啓発 ・喫煙と歯周病との関連についての啓発 <p>【歯科検診の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科検診の実施と検診後の治療勧告の継続 ☆高校生の口腔状態と口腔ケアの実態の把握 <p>【フッ化物洗口の継続・拡充】</p>
市民の行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期に生活リズムを形成し、発達や口腔機能に合わせた食事ができる。 ・離乳完了期である1歳6か月児が食事をよく噛んで飲み込むことができる。 ・保護者が子どもと自身に磨き残しの少ないブラッシングを実践できる。 ・定期的にフッ化物応用を実施し、かかりつけ歯科医で定期的に歯や口腔の状態を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事をよく噛んで食べ、適正な歯並びや噛み合わせの子どもが増加する。 ・児童・生徒が自分で磨き残しの少ないブラッシングができる。 ・フッ化物洗口を行い、かかりつけ歯科医で定期的に歯や口腔の状態を確認する。 ・歯科検診結果に応じた適切な治療を受ける。
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児のむし歯有病率の減少 ★5歳児のむし歯有病率の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・12歳児のむし歯有病率の減少 ★小学生の歯周病判定率の減少 ・中学生の歯周病判定率の減少 ★高校生の歯周病判定率の減少

資料2 上越市歯科保健事業 ライフステージごとの対策と指標(案) NO.2

*人口：H29.3.31現在

時期	成人期 (18～64歳：106,300人(妊婦：1,540人))	高齢期 (65歳以上：59,400人)	障害児(者)・要介護者
これまでの取組	<p>目標：全身の健康につながる歯や口腔の健康管理の実践 評価のポイント：むし歯や歯肉炎、喪失歯のある人の減少 歯科健診受診者の増加</p> <p>【成人歯科健診の継続、拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歯と歯ぐきの健診（幼児歯科健診と同日：無料） 成人歯科健診（歯科医療機関委託） (H29：20・40・45・50・55・60歳、妊婦とその夫) 歯科衛生士によるブラッシング指導と受診勧奨 <p>【健康教育・健康相談の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定健診や健診結果説明会及び地区健康講座において、定期的な歯科健診や専門的ケアの必要性、歯周病と生活習慣病の関連について健康教育を実施 すくすく赤ちゃんセミナー参加の妊婦と夫に対する唾液潜血検査の実施 健診結果説明会及び地区健康講座における唾液潜血検査の実施 お口の健康フェスタにおける講話及び情報提供 	<p>目標：生活の質を守るための歯や口腔機能の維持と口腔ケアの継続 評価のポイント：喪失歯のある人の減少</p> <p>【成人・後期高齢者歯科健診の継続、拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歯と歯ぐきの健診（幼児歯科健診と同日：無料） 成人・後期高齢者歯科健診（委託：65・70・76・80歳） 歯科衛生士によるブラッシング指導と受診勧奨 いきいき人生よい歯のコンクール(県表彰)推薦 <p>【健康教育・健康相談、訪問事業の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定健診や健診結果説明会、地区健康講座等における歯科健康教育、唾液潜血検査の実施 高齢者の通いの場や介護予防事業における歯科衛生士による口腔ケア指導 地域包括支援センター、ケアマネジャーを対象とした口腔ケアに関する研修の実施 訪問事業での口腔機能維持、受診勧奨指導 在宅歯科医療連携室の運営補助 	<p>目標：個々の状態に適した歯の健康を守るための意識の向上と口腔ケアの習慣化 評価のポイント：歯科健診を受診した人の増加</p> <p>【歯科健診の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害児(者) 歯科保健推進事業、在宅要介護者等歯科保健推進事業の実施(県事業) <p>【健康教育の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設職員及び介護支援専門員等への口腔ケア実地研修事業の実施(県事業) 在宅歯科医療連携室における医療・介護施設との調整窓口及び相談事業の実施(上越歯科医師会事業)
指標の達成状況	<p>《達成の見通し》</p> <ul style="list-style-type: none"> 歯肉に炎症所見のある40代後半…(H34) 目標値：40% (H23) 51.1%→(H28) 43% <p>《達成は難しい》</p> <ul style="list-style-type: none"> 歯肉に炎症所見のある20代後半…(H34) 目標値：維持 (H23) 8.2%→(H28) 20.5% 歯肉に炎症所見のある60代前半…(H34) 目標値：45% (H23) 53.8%→(H28) 53.8% 40代後半で喪失歯のない人…(H34) 目標値：75% (H23) 65.2%→(H28) 61.6% 60代前半で自分の歯が24本以上ある人…(H34) 目標値：維持 (H23) 84.6%→(H28) 82.1% 過去1年間に歯科健診を受診した人…(H34) 目標値：50%以上 (H23) 14.5%→(H28) 26.1% 	<p>《達成の見通し》</p> <ul style="list-style-type: none"> 70代前半で自分の歯が24本以上ある人…(H34) 目標値：50% (H23) 44.7%→(H28) 50.5% <p>《達成は難しい》</p>	<p>《達成の見通し》</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害児(者) 歯科保健推進事業実施率…(H34) 目標値：80% (H23) 50%→(H28) 50% 在宅要介護者等歯科保健推進事業の利用者… (H34) 目標値：増加へ (H23) 52人→(H28) 25人
現状	<p>成人歯科健診(歯科医療機関委託)受診率 (H28)</p> <ul style="list-style-type: none"> 20歳：3.4%、妊婦：18.1%、妊婦の夫：6.1% 成人(40・45・50・55・60・65・70歳)：4.0% <p>成人歯科健診結果 (H28)</p> <ul style="list-style-type: none"> 歯肉に炎症所見がある人：20代後半20.5%、40代後半43.0%、60代前半53.8% 未処置歯がある人：40代後半37.2%、60代前半32.5% 過去1年間に歯科健診を受診した人：26.1% 喫煙者の要歯周治療判定率：男性：42.6%、女性：22.0% <p>唾液潜血検査の陽性率 (H28)</p> <ul style="list-style-type: none"> すくすく赤ちゃんセミナー：妊婦：36.9%、夫：45.6% 健診結果説明会及び健康講座：43.7% <p>成人歯科健診受診者の状況 (H28)</p> <ul style="list-style-type: none"> デンタルフロスを使用している人の：(H24) 25.3%→(H28) 26.9% 歯間ブラシを使用している人の：(H24) 23.8%→(H28) 33.4% 口の健康が全身の健康につながる事を知っている人の：(H24) 83.4%→(H28) 83.4% 	<p>高齢者の状況 (H29 特定健診会場での聞き取り調査結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 70代前半で自分の歯が24本以上ある人：50.5% 70代前半で入れ歯がある人：58% そのうち、入れ歯が口腔の状態に合っているか定期的に確認している人：27.9% かかりつけ歯科医がいる人：60代 84%、70代以上 77% かかりつけ歯科医がいると答えた人のうち、定期的に受診し、専門的なケアを受けている人：60代 48%、70代以上 50% かかりつけ歯科医に定期的に受診しない理由は「痛くなったら行く」が多い。 よく噛んで食べることを意識している人：60代 66.5%、70代以上 73.0% 	<p>事業実施状況 (H28)</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害児(者) 歯科保健事業の実施率：50% 在宅要介護者等歯科保健推進事業の利用：25人 在宅歯科医療連携室から訪問歯科診療利用：52人
分析・考察	<ul style="list-style-type: none"> 成人歯科健診(20～70歳)の受診率は毎年3～5%であり、定期的に歯や口腔の状態を確認していない人が多いことが、未処置歯及び歯周病の発症・重症化につながっていると考えられる。 歯磨き時に歯間部清掃を実施している人は増加傾向にあるものの未だ3割と低く、歯周病対策について継続した啓発が必要である。 肥満や口呼吸、喫煙も歯周病の一因となることを啓発する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> かかりつけ歯科医があっても定期的に専門ケアを受けている人は半数以下と低く、自覚症状の有無が受診の基準となっている人が多いことから、むし歯や歯周病、口腔機能低下などの歯科疾患の重症化が考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問歯科健診を受ける人は減少したが、訪問歯科診療につながった人は増加しており、在宅歯科医療連携室が調整する人が増えている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 歯間部清掃を含むブラッシングが実践できていない。 かかりつけ歯科医で定期的に歯と口腔の状態を確認し、メンテナンスを受ける意識が定着していない。 歯周病と全身疾患、肥満、喫煙等との関連性についての実態把握が不足。 	<ul style="list-style-type: none"> 歯間部清掃を含むブラッシングの継続が必要。 かかりつけ歯科医で定期的に歯と口腔の状況を確認し、メンテナンスを受ける意識が定着していない。 個々の状態に適した食事や咀嚼に関する啓発。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害児(者) 歯科保健推進事業の実施率の向上 在宅歯科医療連携室の周知
対策(◎拡充☆新規)	<p>対策の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> 全身の健康につながる歯や口腔の健康管理の実践 <p>【健康教育・健康相談の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> すくすく赤ちゃんセミナー： <ul style="list-style-type: none"> 妊娠による口腔状態の変化、歯周疾患と早産・低出生体重児との関係、歯科疾患の発症・重症化予防のための健康教育の継続 唾液潜血検査陽性者への受診勧奨とフォロー 説明会及び地区健康講座： <ul style="list-style-type: none"> ◎歯科衛生士を講師に唾液潜血検査を実施し、検査の意義と結果説明、歯周病と全身疾患及び喫煙との関連、定期受診とメンテナンスの必要性についての健康教育を実施 <p>【成人歯科健診の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆「生活歯援プログラム」を活用した生活習慣改善への保健指導と受診勧奨の動機づけの実施 歯科衛生士による歯間部清掃、磨き残しのないブラッシング指導 	<p>対策の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活の質を守るための歯や口腔機能の維持と口腔ケアの継続 <p>【健康教育・健康相談、訪問事業の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎健診結果説明会及び地区健康講座： <ul style="list-style-type: none"> 歯科衛生士を講師に唾液潜血検査を実施し、検査の意義と結果説明、歯周病と全身疾患及び喫煙との関連、定期受診とメンテナンスの必要性についての健康教育を実施 高齢者の通いの場や介護予防事業において、口腔機能維持・低下予防のための健康教育を継続 在宅歯科医療連携室の運営補助 <p>【成人・後期高齢者歯科健診の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歯間部清掃、磨き残しのないブラッシング指導、定期受診とメンテナンスの必要性についての啓発 	<p>対策の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の状態に適した歯の健康を守るための意識の向上と口腔ケアの習慣化 <p>【歯科健診の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎障害児(者) 歯科保健推進事業の利用拡大に向け、施設職員へ周知を継続 <p>【健康教育の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> 上越歯科医師会と連携し、在宅歯科医療連携室における医療・介護施設との調整窓口及び相談事業等の取組についての周知
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> 食事をよく噛んで食べる。 歯間部清掃を含む磨き残しのないブラッシングができる。 かかりつけ歯科医で定期的に歯や口腔の状態を確認する。 歯周病と全身疾患、喫煙との関連性が分かり、生活習慣の是正や適切な治療ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食事をよく噛んで食べ、飲み込むことができる。 歯間部清掃を含む磨き残しのないブラッシングができる。 かかりつけ歯科医で定期的に歯や口腔の状態を確認する。 歯周病と全身疾患、喫煙との関連性が分かり、生活習慣の是正や適切な治療ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人や家族が口腔ケアを実践する。 定期的に歯科健診を受ける。 かかりつけ歯科医で定期的に歯や口腔の状態を確認する。
評価指標★新規	<ul style="list-style-type: none"> 歯肉に炎症所見を有する人の減少 未処置歯のある人の減少 45～49歳で自分の歯が28本以上ある人の増加 60～64歳で自分の歯が24本以上ある人の増加 過去1年間に歯科健診を受診した人の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 70～74歳で自分の歯が24本以上ある人の増加 ★過去1年間に歯科健診を受診した人の増加 ★何でもよく噛んで食べる人が増加 	<ul style="list-style-type: none"> 障害児(者) 歯科保健推進事業実施施設の増加

上越市歯科保健計画 中間評価、見直し(案)

	中間評価、見直し(案)	策定時
第1章	計画の見直しに当たって 1 中間評価の趣旨 2 計画の性格 3 基本的な考え方 4 計画の期間 5 計画の対象	計画の策定に当たって 1 計画策定の趣旨 2 計画の性格 3 基本的な考え方 4 計画の期間 5 計画の対象
第2章	各期における取組の検証と今後の対策 1 乳幼児期 2 学童・思春期 3 成人期 4 高齢期 5 障害児(者)要介護者等 ・ これまでの取組 ・ 指標の達成状況 ・ 現状と課題 ・ 今後の対策 ・ 市民の行動目標 ・ 評価指標	各期における歯科保健活動の実態と対策 1 乳幼児期 2 学童・思春期 3 成人期 4 高齢期 5 障害児(者)要介護者等
第3章	計画推進に向けて	計画推進に向けて
第4章	評価	評価